

消防協力者へ感謝状を授与しました

7月7日(木)、消防協力事業所として、扶桑カントリー倶楽部に対し、市長から感謝状が授与されました。



左から、扶桑カントリー倶楽部 従業員の小島一実さん、池上英樹支配人、山口市長

令和4年3月に、扶桑カントリー倶楽部コース内でプレーヤーが倒れ、心肺停止状態となりました。その際、同施設支配人の池上英樹さんと従業員の小島一実さんが、救急隊到着までの間、施設のAEDを使用し、適切な心肺蘇生を絶え間なく施した結果、このプレーヤーは社会復帰に至りました。

これは、日頃から扶桑カントリー倶楽部が救命の重要性を認識し、職員教育を充実してきた組織的な取り組みの賜物であります。

市長から感謝状を受け取った扶桑カントリー倶楽部の池上英樹支配人は、「以前から救命救急の講習を受けていたことが役に立ちました」と話されていました。

また、搬送先の茨城県立中央病院救急医からは、「いつどこで倒れるかは誰にも分からず、倒れた瞬間から心肺蘇生法を開始しなければ、病院でどれだけ高度な医療を施しても命は救えません。今回の勇気ある行動に、心から敬意を表します」とコメントを頂きました。